

## 農業経営体の担い手不足に対応した高齢者雇用に関する研究(平成18年度資源環境経済学講座修士論文要旨)

著者	横田 悦子
雑誌名	農業経済研究報告
号	38
ページ	67
発行年	2006-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/40904">http://hdl.handle.net/10097/40904</a>

## 農業経営体の担い手不足に対応した高齢者雇用に関する研究

経営情報学分野 横田悦子

### 【目的】

本研究の目的は、①高齢者の雇用に対する認定農業者の意向、②非農家を含めた高齢者の農作業就労に対する意向、の2点を整理した上で③雇い手である認定農業者と働き手である高齢者の双方が共に満足度が高まる雇用斡旋の仕組みやあり方についてシルバー人材センター等の事例分析を通して検討することである。

### 【材料と方法】

- ・ 認定農業者の雇用意向に関する調査：仙台市・名取市・亘理町の全認定農業者（460名）へ農業改良普及センターを通じて調査票を配布し、郵送により回収した。回収率は20.4%（94名）であった。
- ・ 高齢者における農作業就労への意向調査：仙台市・名取市・亘理町・大崎市のシルバー人材センターの総会時にアンケートを配布・回収した。回答数は679名である。
- ・ 農業分野における雇用の現状・利用農業者の調査：シルバー人材センター（大崎市・名取市・岩沼市・亘理町）を利用している農業者へアンケート調査を行った。回収率は60.8%（48名）である。

### 【結果と考察】

認定農業者へのアンケート調査の結果、今後、構成員の高齢化や経営規模拡大のために雇用を増やしたいとの意向は強く、すでに多くの認定農業者が高齢者を雇用している現状が伺えた。高齢者の雇用に対して、利用農家はメリットを多く見いだしており、雇用者を選定する際に重視する項目として、「年齢」は重要度が低いことが明らかになった。

一方、シルバー人材センターの会員へのアンケート調査から、高齢者の農作業分野への就労意欲は高いことが明らかになった。また農作業経験がある人の方が無い人より、農作業請負の希望が高い傾向があることや、農作業請負希望がない回答者は農作業が難しそうと答えている人も多いことが明らかになった。

シルバー人材センター利用農業者のアンケート調査から、他の雇用者と比べて同等以上の作業強度・作業内容をシルバー会員に任せているとの回答者が7割いた。シルバー会員に対する評価は、仕事が丁寧であり、作業能率に関しても高評価である一方で、毎回違うシルバー会員が就労することや、農作業に対する基礎知識がない会員が多いことに不満を持っている。シルバー会員を毎年決まった時期に雇用している農業者が多いことから、経営計画上、シルバー人材センターは重要な労働力調達手段との位置づけにあることがわかる。農業者は、シルバー人材センターの雇用斡旋機能を評価している一方で、働き手の農作業経験値の向上や、農作業を頼める人材の増加を期待していることが明らかになった。

以上の結果から、高齢者を活用して農業の労力不足を解消できる可能性は大きいと考えられた。高齢者雇用の維持・拡大、高齢者と農業者の満足度向上のためには、①高齢者が自分の体力・能力に対する農作業内容の適正を把握しつつ、②農作業就労者の量の確保や質の向上を図り、③農業者が外部組織の利用に対して安心感が高まるような、「農作業研修」等を取り入れた仕組み作りを行うことが必要であると考えられる。